

(臨床研究に関する公開情報)

公立陶生病院では、下記の臨床研究を実施しております。この研究の計画、研究の方法についてお知りになりたい場合、この研究に検体やカルテ情報を利用することをご了解できない場合など、お問い合わせがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。なお、この研究に参加している他の方の個人情報や、研究の知的財産等は、お答えできない内容もありますのでご了承ください。

[研究課題名]

間質性肺炎急性増悪の予後と酸素化の関連

[当院研究責任者] 部署名 呼吸器・アレルギー疾患内科 氏名 寺町 涼

[研究の背景]

間質性肺炎は肺に様々な炎症や線維化を来す疾患群の総称で、様々な原因があります。また、間質性肺炎では様々な原因により呼吸不全を起こし入院治療が必要となりますが、その中でも最も重要な病気に「急性増悪」があります。急性増悪では1カ月以内に呼吸困難が急激に悪化し、胸部画像検査で肺に新たな影が出現する病気で、年間発症率10~20%、3カ月死亡は50%にまでのぼるとされています。急性増悪では、これまで診療に携わってきた多くの医師の経験から大量ステロイド療法などが行われていますが、有効性が大きく示された治療法は存在していません。死亡率を考慮すると、急性増悪の治療法の開発は喫緊の課題ですが、そもそも治療効果判定に有効な指標は分かっていません。

急性増悪では、病気の発症時に強い低酸素状態になり、短期予後に関連することが言われています。治療の効果が得られ回復すれば低酸素血症も回復していきませんが、この回復具合が急性増悪後の将来の死亡リスクに関わるかは分かっていません。

[研究の目的]

本研究では、間質性肺炎急性増悪診断時および診断30日時点の酸素化指標が、急性増悪診断後90日および365日(1年)の死亡の予測に有効かどうかを検討することで、将来の治療試験における早期評価指標の候補になり得るか検証することを目的としています。

[研究の方法]

●対象となる患者さん

2007年3月から2022年7月に公立陶生病院にて間質性肺炎急性増悪の診断を受けた18歳以上患者さん。その中から過去に急性増悪の診断を受けたことがある方、元々長期酸素療法を使用していた方、急性増悪診断時に酸素化指標の情報が得られない患者さんは除いて検討します。

●研究期間：研究実施承認日から2031年3月31日

●利用する検体、カルテ情報

診療情報(カルテ)から、年齢、性別、間質性肺炎診断名、身体所見、検査結果(血液検査、画像検査、呼吸機能)、急性増悪診断前および診断後の治療内容、入院日および退院日、生存情報などの情報を収集します。

●利用する検体、カルテ情報の管理

本研究で用いるカルテ情報は、当院のみで利用します。

[研究組織]

1. 研究代表者

公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科・部長・寺町涼

2. 研究分担者

公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科・部長・横山俊樹

公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科・部長・片岡健介

公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科・部長・木村智樹

[個人情報の取扱い]

研究に利用する情報には個人情報が含まれますが、利用する場合には、お名前、住所など、個人を直ちに判別できるような情報は削除し、研究用の番号を付けます。また、研究用の番号とあなたの名前を結び付ける対応表を当院の研究責任者が作成し、診療情報との照合などの目的に使用します。対応表は、研究責任者が責任をもって適切に管理いたします。研究成果は学術集会や英文学会誌で発表されますが、その際も個人を直ちに判別できるような情報は利用しません。

[問い合わせ先]

公立陶生病院

所属部署 呼吸器・アレルギー疾患内科 氏名 寺町 涼

電話 0561-82-5101

FAX 0561-82-9139